

だれもが充実したいのちを燃やして生きることができるよう!

私たちは地域・職域・学校など、生活のいろいろな場面で「健康寿命」をのばす運動を実践しています。

よぼう医学

THE NEWS OF HEALTH SERVICE

2006(平成18)年10月15日 第402号

(財)東京都予防医学協会
(財)予防医学事業中央会東京都支部
発行人 北川照男・編集人 山内邦昭

発行所 〒162-8402
東京都新宿区市谷砂土原町1の2
保健会館 電話03(3269)1131

http://www.yobouigaku-tokyo.or.jp

毎月15日発行 年間購読料300円(1部30円)

● 今月の主な紙面 ●

1面 「成功長寿をめざした抗老化プログラム」で開催
第47回日本人間ドック学会

2~3面(見開き)
話題 「個別健康支援プログラム」で成果を上げた
藤沢市の取り組み
連載 たばこ問題とその規制対策 第6回
連載 健康づくり・健康増進を支援するページ
実践編 第6回

4面 世界ハートの日が開催
脊柱側弯症の早期発見とその対応
第226回学校保健セミナー
第24回全国情報統計研修会が開かれる
がん患者支援キャンペーン
「リレー・フォー・ライフ・ジャパン2006」
連載 保健会館クリニックの顔
産業保健フォーラム IN TOKYO 2006が開催

「成功長寿をめざした抗老化プログラム」で開催

第47回 日本人間ドック学会 高齢社会に対応した人間ドック のあり方をめぐり講演やシンポ

単なる長寿ではなく、国民一人ひとりが生涯にわたり、元気で活動的に生活できる社会の実現をめざして、国による健康日本21や健康増進法、健康フロンティア戦略などの施策が進められている。いっぽう、このような国の予防医療重視の方針や国民の予防意識の高まりを受けて、生活の質の向上と健康長寿を目的とした抗老化医学の研究が精力的に行われており、大学病院などでもアンチエイジング(抗加齢)ドックの開設が相次いでいる。こうした中、「成功長寿をめざした抗老化プログラム」をメインテーマに、第47回日本人間ドック学会(学芸大学(大会長 鈴木信琉球大学名誉教授)が、9月14日、15日の両日にわたり、宮野津市の沖縄コンベンションセンターで開催された。大会では、人間ドックを活用した健康長寿に関する取り組みや生活習慣病対策などについて、多数の講演やシンポジウム、パネルディスカッションが行われた。また同学会は、今大会より国際会議としての認定を受け、第1回国際会議を同時開催した。

大会の初日、開催地にちなんで行われた会長講演「成功長寿のためのオキナワ・プログラム」(座長 奈良昌治日本人間ドック学会理事長)では、大会長の鈴木名誉教授が、貴重な沖縄県の100歳超検例と縦断的なコホート研究として行われた2003年 Okinawa Life Intervention Seminarの概要について紹介した。

鈴木名誉教授は、セミナーの成果から、沖縄県の観光産業とリンクさせて成功長寿を目的とした人間ドックを行うことで、沖縄の経済と教育と健康の発展に貢献できる。沖縄文化を世界で紹介・発信し、沖縄が長寿研究のメッカとして発展することを期待したい」と述べた。

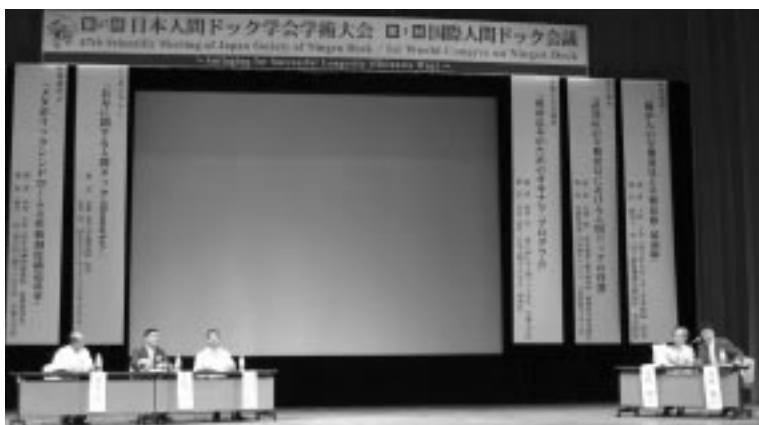
このうち座長の米井教授は、「通常の人間ドックでは、がんなど生活習慣病の予防と早期発見・治療を目的としているが、抗加齢ドックでは病的老化とOOL(生活の質)低下の発見・予防・治療が目的になる」と前置きして、同大学のリサーチセンターで行っている抗加齢ドック支援システム(写真)について説明した。

米井教授は、「抗加齢ドックでは、老化の指標として骨年齢・血管年齢・筋年齢・精神年齢・ホルモン年齢などを評価するほか、老化危険因子として、免疫機能・酸化ストレス・心身ストレス・生活習慣・代謝機能について評価している」と述べて、検査方法や健診システム、バイオマーカーの特性について詳細に解説した。

また高輪メディカルクリニックの久保院長は、アンチエイジングが医療・医学として確立するためには診断・治療・ケアに加えて疫学的検証が求められるとして、自施設が求められるとして、自施設

での1000人におよぶ「健康寿命ドック」受診者の総合解析に基づき、アディポネクチンやDHEA-H、ホモシステインなどのバイオマーカーについて得られた知見を紹介した。その上で久保院長は、「長寿に関する人間ドックでは、さらに遺伝子解析、画像診断を加えた3つのアプローチを備える必要がある」として、バイオマーカー単独ではなく人間ドックの必要性を強調した。

その後の質疑応答では、会場からの「抗加齢ドックでは多項目にわたるバイオマーカーの検査、サプリメントやホルモンの補充療法などが行われているが、エビデンスのあるものは少ない。受診者へのきちんとしたインフォームドコンセントが必要では」との発言に対して、米井教授は「発言の内容に基本的な同意を示した上で、加齢に伴う変化については、検査値が何歳くらいの値に相当するかということについてある程度エビデンスが出ているが、どのくらいの年齢を目標に、どのような指導をしたらいいかについてはまだ明確にわかっていない。きちんとしたエビデンスを出すために、多施設で



個人情報取扱について

日ごろより、東京都予防医学協会の機関紙「よぼう医学」をご愛読くださりありがとうございます。本会では、現在「よぼう医学」を送付させていただいている皆様について、送付に必要な情報(名前、住所、所属、役職など)を送付名簿として保持しております。これらの個人情報の収集、保存、利用につきましては、本会の個人情報保護方針に基づき、厳重な管理のもとに運用しております。そのうえで今後も継続して送らせていただきたいと思います。送付名簿から削除を希望される場合には、お手数ですが、広報室(電話03-3269-1131)までご連絡ください。

健康管理相談をお引き受けします

当センターの会員が事業所、学校、各種団体の健康管理をアドバイスいたします。

コンサルテーションのご案内

11月 1日 岡 惺治 (健康管理コンサルタント)	12月 6日 岡 惺治
8日 三輪祐一 (東京都予防医学協会総合健診部長)	13日 三輪祐一
15日 岡 惺治	20日 岡 惺治
22日 三輪祐一	27日以降年末年始は休み
29日 第210回 ヘルスクエア研修会につき休み	

お問い合わせ・ご相談は 予約制)
電話 東京(03)3269-1141

健康管理コンサルタントセンター
事務局 東京都新宿区市谷砂土原町1の2
(財)東京都予防医学協会

